

出来事ファイル (No.22-10)

■「神戸駅前広場の使い方を考える会」発足

神戸市では、神戸駅周辺は都心の一角をなし、歴史や文化が息づくエリアにもかかわらず、神戸の中心地としての活気やにぎわいに課題があるとして令和3年11月、建設局駅前魅力創造課が「神戸駅前広場再整備基本計画」を策定、同月9日第1回総会を神戸市産業振興センター内で開催した。

参加団体は、神戸駅前商店会・橋ふれあいのまちづくり協議会・中町通りまちづくり推進協議会・東川崎ふれあいのまちづくり協議会・ハーバーランド協議会・もとまちハーバー懇談会の6団体、周辺施設から神戸地下街株式会社・湊川神社・HDC神戸の3団体、交通事業者として西日本旅客鉄道(株)・神姫バス(株)・阪急バス(株)・神戸市交通局自動車部市バス運輸サービス課・一般社団法人兵庫県タクシー協会の5団体、行政から神戸市企画調整局未来都市政策課・神戸市都市局景観政策課・神戸市都心再整備本部都心再整備部都心三宮再整備課・神戸市中央区まちづくり課、事務局として神戸市建設局駅前魅力創造課・神戸市建設局中部建設事務所である。今後、上記等への情報共有や意見交換の場として「神戸駅前広場の使い方を考える会」を設立した。



古賀野 正幸/
エスタシオン・デ・神戸
対象範囲は、掲出図面の通り

■もとまちハーバークリーン作戦

もとまちハーバー懇談会では9月7日(水)正午12時、地域一帯のクリーン作戦を実施した。奈良山会長はじめ、ネットヨタ兵庫(株)から19名、エスタシオン・デ・神戸から9名の参加があった。



エスタシオン・デ・神戸

ネットヨタ兵庫(株)

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 10月

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL.361-4523

- 10月6日(木)～10月11日(火) 第17回朋の会水彩画展
- 10月13日(木)～10月18日(火) 第15回みなと銀行こうゆう会 福友会部会 会員作品展(展示は14日～)
- 10月20日(木)～10月25日(火)第27回森の会展
- 10月27日(木)～11月1日(火)葦の会

◇元町映画館(有料) TEL.366-2636

- 10月1日(土)～10月7日(金) 『ほとぼりメルトサウンズ』

■栄町通クリーン作戦中止に

9月9日(金)の栄町通クリーン作戦は、雨天の為中止になりました。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

□読者プレゼント

観覧ご希望の方は、展覧会名と住所・氏名・年齢・本紙へのひと言を添え、本紙編集部までハガキでお申込み下さい。先着順で2名の方にペア招待券をお送りします。

◎キングダム展 -信-

第1話「無名の少年」から第438話「雄飛の刻(とき)」までのストーリーで、仲間や敵との出会い・別れを糧に成長を遂げる主人公・信を中心に展示構成する展覧会です。

10月14日(金)～12月11日(日)
グランフロント大阪 北館
ナレッジキャピタル

TEL.0570-200-888

キングダム展キービジュアル©原泰久/集英社



◎第5回「あかし若手アートチャレンジ」

明石市内及び近隣の高校生、大学生による絵画や立体作品などの優れた作品の発表の場として、明石市立文化博物館を開放し、地域に開かれた博物づくりの一環として開催する展覧会です。

9月25日(日)～10月10日(月・祝)
明石市立文化博物館 2階ギャラリー
TEL.078-918-5400

◎イグ・ノーベル賞の世界展2022

イグ・ノーベル賞の誕生秘話から授賞式の様子、さまざまな分野にわたった研究を、パネル、映像、実物や体験(実験)などのアイテムを通して、「まず笑って、そして考える」ことを楽しんでいただく展覧会です。

10月1日(土)～11月13日(日)
心齋橋PARCO 14F
PARCO GALLERY
TEL.050-1807-0377



- 10月15日(土)～10月28日(金)『雪道』
- 10月22日(土)～11月4日(金) 『オレの記念日』・『Blue Island 憂鬱の島』
- 『百合の雨音』
- 10月29日(土)～11月4日(金) 『役者として生きる』無名塾第31期生の4人
- 10月29日(土)～11月11日(金) 『時代革命』
- 【予定は変更になる場合がございます。】

編集後記

6丁目から神戸駅へ向かう途中にD51が鎮座する。大きい図体の機関車だが、元町商店街の出口からも、神戸駅を出たところから見えない場所にある。奈良山会長をはじめエスタシオン・デ・神戸、ネットヨタ兵庫(株)、他地元企業のみなさんが、長年、毎月第1水曜日12時〜クリン作戦に取り組んできた地域。神戸市建設局駅前魅力創造課は、このほど「リノベーション神戸」の一貫としてD51をライトアップ同広場の高質化を図ることに。点灯式が10月28日(金)18時30分から現地で開催される。

みなと元町 TOWN NEWS

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

34年ぶりの新潟。開港5都市景観まちづくり会議会議報告

合資会社ゼンクリエイト 根津 昌彦

台風14号が日本列島を去ったのも束の間、今度は台風15号の接近に伴い、9月23日は兵庫も新潟も雨のスタートとなった今年の開港5都市景観まちづくり会議新潟大会。私にとっては、実に34年ぶりの新潟の旅となりました。前回訪れたのは18歳、高校三年生の時。全日本合唱コンクール全国大会に出場し、全国3位をいただいた思い出の地への再来訪でした。当時、金賞受賞の後のホテルでの祝勝会はお水で乾杯しましたが、今回は「お米のお水」での乾杯を楽しむために「毎食飲むぞ!」と心に決めて、伊丹空港を飛び立ちました。

『温故知新 五港のキズナを未来へツナグ』をテーマに開催された本大会は、函館、横浜、神戸、長崎、そして開催都市新潟から100名を優に超える参加者が、全体会議Iの会場である信濃川沿いにある朱鷺メッセに集い、他都市のメンバーとの再会を喜ぶ声が会場のあちらこちらで聞かれました。



写真1:全体会議Iでのパネルディスカッションの様子

全体会議Iのあとは、会場をANAクラウンプラザホテルに移してのウェルカムパーティー。円卓が16卓並んだ会場では各都市のメンバーがまんべんなく分かれて座り、新潟の郷土料理や20歳以上の日本酒に舌鼓を打ちながら交流を深めました。アトラクションでは「新潟甚句」を参加者が大団円になって会場内を踊り回り、こんな宴席はいつか何時以来だったか、コロナ禍で時が止まっていたのを引き戻してくれたようで、ほんとに楽しいひと時でした。

夜9時に中締めを終えた後は、小グループに自主的に分かれての2次会へ。私は、神戸の岡本のメンバー4人、

横浜メンバー1名、長崎メンバー1名と一緒に、新潟の渡辺秀太さんのご案内で、昔の置屋を改修した趣ある居酒屋にお連れいただき、地元の味を再び堪能しつつ、日付が変わるころまでお互いのまちづくりの取り組みに対する悩みやこんな街にしたいという話で大いに盛り上がりました。

2日目も午前中は雨の中、5つのまちあるきの分科会が各地で行われました。私は大阪でのリモート会議に参加せねばならず、会議が終わってから一人第六分科会と称して、宿泊したホテルの近くにあった青海ショッピングセンター内の町中華で豚肉ときくらげのたまご炒め定食と水餃子、青島ビールで腹ごしらえし、本町(ほんちょう)や古町(ふるまち)の商店街あたりをウロウロしました。

午後4時から全体会議IIで、FGメンバーによる50年後を見据えたまちづくりのプレゼンテーションでした。FGとは、Future Generation(未来ある世代)の略で、下は10歳の小学4年生、上は50代のおっさんによる、各都市2グループずつのプレゼンテーションが行われました。

神戸からは、三宮中央通りの永田さん、岡本の藤本さん(実は弊社の新人社員です)による、「KOBE. 50年前、50年後」というプレゼンテーションを行いました。50年後を語るには、いまと50年前との比較からということで、1971年頃の元町商店街の様子を伝えるスライドや、1970年大阪万博の時に予言した50年後がその通りとなっているかなどを紹介しました。「主婦は電子チェアに座って、家事プログラムのボタンを押すだけ」「蛇口から牛乳がでる」「人は1日4時間しか働かなくてよい」などなど。50年前に市電廃止となったが、いまは市電復活を目指した接続バスが街中を走るようになったということなど、進化している部分と昔の良さを取り戻そうという動きがミックスされているのが現代。となれば、50年後はどうなっているのか?人口減少が一層進ん

だ50年後は、10万人規模のコミュニティ単位が都市の基本となり、かつ個性ある多極化都市の1つの極に神戸はなっているという予測を発表し、道路空間は一層人中心で憩いと賑わいの空間となっている未来を描きました。

新潟からは地元の小学4年生が、新潟島の海岸沿いの防風林の大切さをレポートし、50年後もしっかりと守っていきたいという力強いメッセージに、参加者から大きな拍手を受けていました。まさにFG世代のプレゼンテーションとして、やられた〜と各都市メンバーが唸っていました(笑)。



写真2:全体会議IIのプレゼンスライドより

2日目の夜も繁華街へ繰り出し、たまたま街中を歩いていた男女3人の20代を誘って、地元の居酒屋で一緒に宴席を楽しみました。乗りの良かった若者の出身は、埼玉、福島、そして大阪の仲良しメンバーで、私たち開港5都市の取り組みを話したところ、私たちが何かやりたいと思っていたところなんです、意気投合!来年一緒に函館に行こうと再会を約束しました。

歩いて、食べて、飲んでの毎日でしたが、予定通りたくさん「お米のお水」で乾杯できた有意義な2泊3日となりました。



写真3:2日目の夜、街で出会った若者3人と開港5都市参加者の記念撮影

<p>みなと元町タウンニュース</p>	<p>2022年(令和4年)10月1日</p>
<p>海という名の本屋が消えた（107）</p>	<p>平野義昌</p>

光村弥兵衛・利藻（5）

1903(明治36)年光村利藻が美術印刷を志した頃、日本とロシアに戦争が迫っていた。同年6月東京帝国大学教授ら学者7名が桂太郎内閣にロシア・満洲問題意見書を提出、「最後の決心を以て大計画を策せざるべからず」(註1)と強硬策を訴えた。多くの新聞が支持し、国民にも浸透する。

幕末以来ロシアの東進・南下政策は日本にとって大きな脅威だった。1891(明治24)年滋賀県大津市で来日中のロシア皇太子が警備の巡查に襲われた(のち処罰について日本政府と司法が対立。「大津事件」)。皇太子はウラジオストクでのシベリア鉄道起工式参加予定だった。95(明治28)年フランス・ドイツ・ロシアは日清戦争で日本が得た遼東半島を返還させた。後にロシアが租借する。歴史の授業で習った「三国干渉」「臥薪嘗胆」だ。さらにロシアは満洲を占領、シベリア鉄道が完成間近となった。同年日本が朝鮮王朝(97年大韓帝国に改称)の親ロシア派王妃・閔妃を暗殺する。蛇足ながら、1902(明治35)年発売の胃腸薬の名称は「忠勇征露丸」である。

国民に戦争の緊張あり高揚あり、芸術を楽しむ余裕はない。利藻の「大日本真美会」の会員も減少する。ちょうど外務省・兵庫県から利藻に翌年開催のセントルイス万国博覧会出品の申し入れがあった。利藻は販路拡大のチャンスと見た。『真美大観』他「関西写真製版」の既刊出版物を再版、『支那画集』『光琳画集』など新画集も刊行した。さらに国宝仏画「孔雀明王像」(京都・仁和寺)木版色刷りを出品。実物を写真撮影、原画どおりに着色、これをもとに木版。彫師・摺師として田村鉄之助を招聘。版木、紙漉き、絵の具など吟味、親版を彫り、色の違う部分はそれぞれ別に版を彫る。浮世絵版画の手法で、刷り工程は千3百回を超えた。これを1年でやり遂げた。

1904(明治37)年4月30日万国博覧会開催(12月1日まで)。「孔雀明王像」は名誉金牌を受賞。当初出版物の販売は好調だったが、7月になると市民は避暑に出かけ、入場者・売り上げ共激減。終了後、担当者・田島は補填のためヨーロッパを回って販売した。

同年2月日露戦争開戦。利藻は海軍省に写真班従軍を願い出た。正式許可は下りず私費従軍、満洲占領地を撮影。10月海軍省囑託写真班となり、旅順周辺の戦況を撮影。日本軍は写真によって敵の状態を知り、戦力の分析ができた。

この戦争で絵はがきが兵士慰問に大流行し、人気が高まる。4月博文館が交換会「日本葉書会」を設立し、機関誌を発行するほどだった。印刷業界も活況を得た。12月利藻は絵はがき10万枚を作製し、海軍に寄贈。戦地の兵士に送られた。

同年利藻は刀剣・装具の名品所蔵者を訪ねて撮影し、写真集『鑿(たがね)の華』を出版している。コロタイプ印刷、和綴じ豪華本、西園寺公望他名士揮毫、黒柿箱入り。同好の士に贈呈した。以前にも刀剣に関する古書『剣と飾』を復刻して無料配布していた。名品・名著を後世に遺すという使命感である。

1905(明治38)年1月、二〇三高地激戦の末、旅順ロシア軍降伏。写真班は両軍協議(写真)と日本軍旅順入城を撮影し、月末帰国。

3月日本軍は奉天会戦に勝利。国民は提灯行列、たいまつ行列で祝った。大阪市立博物館が戦勝記念の美術展覧会を企画し、「関西写真製版」に提携を申し出た。博物館は新所蔵品を公開。利藻は名画複製を出品し、出版物などを販売。谷口香嶺(こうきょう、1864～1915年、日本画家)

の版画「光琳風の花鳥」(2枚組5円)、絵はがき「元禄髷」千代田の大輿(各8枚組50銭)を制作。江戸装束時代考証は歌舞伎作家・食満南北(けまなんぼく、1880～1957年)、モデルは南地の芸妓たち、衣裳は高島屋、結髪は南地の髪結い師が担当。「額用美人着色写真」(1枚1円)や「風景絵はがき」(1枚2銭)も販売。印刷部門は戦争需要もあり大忙しだった。会場に芸妓の等身大写真を飾り、芸妓連が絵はがきの扮装で接客、画家の席画も好評を得た。開催10日間で開館以来最多入場者を記録した。

5月「日本海海戦」勝利。写真班は連合艦隊の舞鶴帰港を撮影。9月日露講和条約締結。10月23日横浜沖凱旋大観艦式(参加166隻)撮影。艦船集会所の伊勢湾から同乗した。利藻は以上の各戦場・式典の写真帖を作製。天皇に献上し、海軍に寄贈した。後世に残す記録写真、すべて無償である。

写真集刊行、美術品複製の成功により、利藻は印刷事業への思いをより深くする。ドイツの泉谷から三色版研究完成の報告もある。これまで採算度外視のボランティア活動だった。資金源である父の遺産は底をつき始めた。営利事業への転換が急務なのだが、銀行の融資が進まない。理由は利藻の浪費癖に対する懸念。豆千代の贅沢などデマ情報もあった。

1906(明治39)年利藻は侯野景孝代議士(美術蒐集の相談役)を通して斎藤実海軍大臣に口利きを依頼。斎藤は利藻の海軍貢献をよく知り、三菱・豊川総理事と縁戚でもある。三菱銀行(木村久寿弥太神戸支店長)の融資が決まり、「光村合資会社」として再出発する。

新体制は、侯野総理事、高橋神戸支店長(帝大卒の法学士、有力銀行家の推挙)。他社のベテラン技術職・営業職を高給でスカウトした。東京に本店と新工場建設(予定)、大阪に写真館と工場新設、神戸工場拡張。泉谷(ドイツ人の妻と帰国)が新工場を設計した。新しい印刷・写真機械を輸入し、工場完成まで神戸工場に置く。斎藤大臣の力で海軍から補助金が出て、雑誌「海軍」刊行決定。

ところが、泉谷の三色版技術は未熟だった。仕方なく07(明治40)年ドイツからヘルマン・トイヴナー技師を招いた。泉谷夫妻は新婚旅行に出てしまい、領事館員に通訳を頼む始末。利藻はついに側近・泉谷を解雇する。同年4月新会社業務開始。トイヴナーの三色版部門最初の作品、尾形光琳「六歌仙」と円山応挙「牡丹図」は高い評価を得た。

同年7月大韓帝国新皇帝即位。嘉仁皇太子(のち大正天皇)が祝賀訪問。海軍の命令を受け「光村合資」写真部が随行、両国皇族を撮影した。利藻旧知の伊藤博文が韓国統監、その子息・博邦が宮内省式部長官だった。

国内では帝室博物館から「光村合資」に凶録撮影・制作の用命があった。他にも京都・奈良の国宝級美術品・仏像を撮影。失敗・苦心を重ねながらも、広くその技術力が認められた。煙草専売局、百貨店、商社、外国航路商船など商業写真の注文が殺到した。

同年利藻は長年の海軍貢献により、勲六等瑞宝章を授与された。斎藤大臣の配慮だ。「光村合資」の仕事は好調だが、経営は赤字。人件費過大、トイヴナーは職人気質で大量生産を否定、トップの侯野・高橋は印刷業も経理も素人。加えて戦勝景気が治まり不景気、売上金回収不能。工場建設に着手できない。08(明治41)年資金枯渇。三菱銀行は融資を拒否。利藻

は美術品をすべて担保(「兵庫鎖太刀」1本残す(補註1))にして骨董商から借金した。小学校同級生・小寺謙吉代議士(補註2)から岸本銀行を紹介されるが、岸本は三菱と合意できず撤退。09(明治42)年利藻はまたも斎藤大臣を頼る。斎藤～豊川～木村～鐘紡・武藤山治～倉庫業・森本六兵衛(創業者・六兵衛の長男、利藻同級生)に話がつく。4月「光村印刷」設立、資本金5万円、森本社長のもと、利藻は取締役の肩書きのみ。技術者はほぼ残留。借金返済すれば会社は利藻に戻る約束だ。利藻は残った東京本店、出版部、大阪工場も整理し、神戸本邸、別邸も手放す。家族は武庫郡御影町(現在神戸市東灘区)に転居。利藻は豆千代と大阪で暮らす。仕事は「光村印刷」注文受付と出張撮影。曾我廻家一座が神戸相生座で利藻没落をネタに喜劇を上演、満員盛況になった。

利藻に不幸が襲う。09年7月大阪の住居火災。10月伊藤博文暗殺事件。10(明治43)年3月継母たき没。利藻は神戸本邸での葬儀を三菱・岩崎家に願い出た。「兵庫鎖太刀」を譲渡する条件で借り受け、たきを弔った。「光村印刷」は採算重視の堅実経営となったが、写真製版主任・安雲宗一は減給処分を受けながら三色版研究を続けていた。10年夏新技術完成。11(明治44)年利藻は安雲に「嵐山八景」絵はがき原版を送り、新技術による製版を依頼。京都朝日堂で販売し、版を重ねた。京都名所、祇園祭、舞妓など続刊。大阪、奈良、和歌山、神戸も制作。安雲の技術は進化し、絵はがきの販路も拡大した。

1912(明治45)年7月30日明治天皇崩御、大正改元。皇族方、有力政治家の死去も続き、世の中は沈滞、また不況。13(大正2)年利藻の絵はがきは販売快調ながら売掛金を回収できず。三菱や神戸財界人との交渉で東京・神戸往復。14(大正3)年3月海軍疑獄事件により山本権兵衛内閣総辞職。斎藤大臣も辞任。3月豆千代上京、霞町で花柳界に復帰、支度金を利藻の事業資金にした。8月利藻は豆千代に促され上京、「光村出版部」を開業。
〈……ようやく事業の端緒を得たり。物価の安き時代ながら、借家二戸にて三十二円、店員一名、下女を加えて人件費わずかに十五円に満たず、これ実に大正三年秋より、後一ヵ月ぐらいの実状なりしなり。〉註2

註1　伊藤整『日本文壇史7』講談社文芸文庫1995年本書に「利藻」『智徳会雑誌』の記載はない。
 註2　増尾信之「光村利藻伝」光村原色版印刷所　1964年補註1　平安から鎌倉時代の古刀。腰に下げるため鞘に鎖を用いる。
 補註2　謙吉(1877～1949年)は衆議院議員(08～30年)、三田学園創立者、戦後公選第1回神戸市長。写真　上掲[註2]より。両軍首脳。第2列中央の2人が乃木希典とアナトリー・ステッセル。

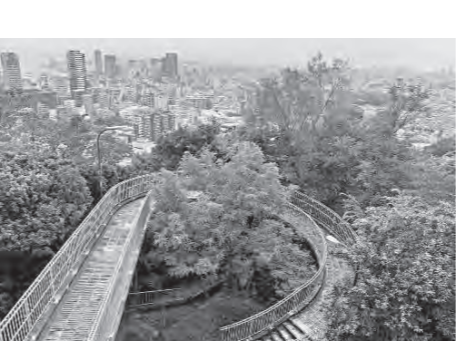


利藻水師菅

<p>みなと元町タウンニュース</p>	<p>2022年(令和4年)10月1日</p>
<p>みなとMIO MACHケンチクさんぽ vol.14</p>	<p>公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 兵庫地域会　地域まちづくり委員会</p>

諏訪山の歴史に触れて

みなと元町近辺から坂道を上り、1キロほど先の「諏訪山公園」へ向かいました。個性的な飲食店が並ぶ繁華街から生田新道を越えると、落ち着いた街並みに変わります。この辺りは行政の中枢施設が集まる、いわゆるシビックゾーンです。さらに坂道を進むと住宅が増え、点在する学校や教会が見えてきます。立派な日本庭園をもつ相楽園があり緑豊かなエリアです。その先のバス道、山麓線までは、みなと元町から歩いて15分ほどです。名前の通り山の麓の曲がりくねった道です。山麓線から「諏訪山公園」へは登山道を上れば到着です。ここまで神戸港から2キロ足らず。海から山までの間に産業、文化、暮らしの都市機能が積層になって存在しています。横に長い神戸の市街地は縦断すると変化に富んだグラデーションがおもしろい。改めて繁華街から山の中まで、わずかな距離だと分かりましたが坂道がきついので縦断するのは結構大変です。



ビーナスブリッジ

神戸港開港後は諸外国との交流が始まり、明治6年、兵庫県は “公園がないのは文明国らしくない” と諏訪神社境内一帯を公園に指定しました。当時、諏訪山公園は生田川、居留地東と並び神戸三公園と呼ばれたそうです。公園の中央に位置する広場が金星台と名付けられたのは、明治7年にフランスから来た観測隊が、この辺りで金星の太陽面通過観測を行った場所だからということは広く知られているのではないのでしょうか。これにより日本の経度が確定し日本標準時の基盤となる子午線が定められた歴史的な観測でした。明治36年に第五回内国勧業博覧会が大阪で開催されたときには、協賛行事として公園内の標高約180mの場所が切り開かれ展望台として整備されました。明治44年に出版された「西摂大観」では “神戸の地到るところ山海の景勝に富むといえども諏訪山に比肩するもの殆ど稀なり” と諏訪山からの眺望について絶賛され、日露戦争祝賀会や観艦式見物の絶好の場所として親しまれました。時代は変わり昭和46年には展望台と金星台を結ぶ位置に「ビーナスブリッジ」が作られ人気の眺

望スポットになっています。全国的には名前の由来となった金星台より、こちらの方が有名ではないでしょうか。

昭和3年には諏訪山公園内に動物園が作られました。動物園は昭和26年に閉園し「王子動物園」に移されましたが、跡地は「こどもの園」として整備され児童公園となっています。私も小学生の頃に何度か訪れ、ここの滑り台は「王子動物園」「須磨離宮公園」と並び神戸三大滑り台と勝手に思っていました。この頃はいつも多くの子供たちで賑わっていた覚えがあります。「こどもの園」には動物の檻の跡を活用した遊具など、動物園の痕跡が見られます。それから50年近く経ち、今ではかなり荒れてしまっていますが何とか公園として残っています。この8月末から「ビーナスブリッジ」は改修工事が行われていますが、「こどもの園」には手が掛けられない様子です。町を見渡せる緑豊かな都市公園ともなれば人気の場所になりそうですが、神戸の場合、思いつくだけでも「保久良神社」「灘山山公園」「布引の滝」「会下山公園」などいくつもあり、



こどもの園

如何せん恵まれ過ぎているためか人気の場所とは言えなさそうです。かつて諏訪山には夏目漱石も訪れたという諏訪山温泉がありました。諏訪山温泉を開発したのは県の官史とのことですが、その後一大歓楽街にまで広げたのが大阪出身の前田又吉です。又吉は明治6年、諏訪山麓に温泉が出たことに目を付け、花隈で経営していた料亭「常盤花壇」を諏訪山に移し、それを「常盤楼」と名付けました。明治15年には3棟にまで増やし諏訪山を、花隈を凌ぐ繁栄の地としました。明治21年には京都進出を図り、現在の「ホテルオーケラ京都」(京都ホテルグループ)につながる「常盤ホテル」を創業しました。その後、諏訪山の温泉街は太平洋戦争の空襲で焼失し、温泉街の入り口にあった前田又吉の銅像や、温泉街を示した石碑も京都ホテルグループに引き取られ、今では諏訪山温泉の痕跡は何も残っていません。

金星台には「海軍営之碑」という石碑があります。海軍営とは元治元年に勝海舟が作った海軍操練所のことで、石碑には海舟直筆の碑文が刻

まれています。将軍徳川家茂が海防巡視に小野浜の海軍操練所で床几を据えられた跡を残すために作られた碑とのことですが、海軍操練所が閉鎖となり大正15年に山の上のこの地に置かれました。今では高い建物に遮られてよく見えませんが、当時はここから港が一望できたことでしょう。新港町にある「海軍操練所跡碑」は有名ですが、こちらの碑はあまり知られていないのではないのでしょうか。元々この碑が置かれるはずであった小野浜と金星台を直線で結んだちょうど中間には三宮神社があります。ここに「神戸事件発生地」と記された石碑が置かれています。神戸も明治維新の舞台のひとつであったことを今に伝えています。

東日本大震災で津波に襲われた町には、先人たちにより地震や津波に関する教訓が刻まれた石碑がいくつもあることをニュースで知りました。現在では大事なことを伝承するため、石碑に刻むという意識はないので刻まれた教訓は活かされなかったそうです。

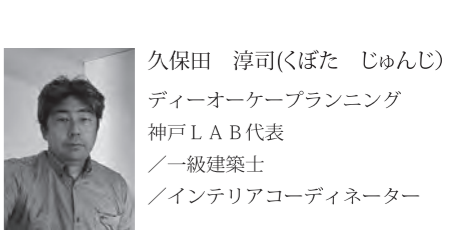
かくいう私も普段石碑に目を向けることはほ



海軍営之碑

とんどありませんが、こうして “ケンチクさんぽ” として石碑に触れ、まさしく今いるここに何があったのか、歴史的にどんなところだったのかを知るきっかけになりました。石碑に限らず、建物や工作物、自然の樹木などでも同様に、その場所の成り立ちを後世に伝える役割を担っているものは、いろいろあると思います。

神戸の町は、これまで空襲や水害、震災に見舞われ、その度に様変わりを余儀なくされてきました。そんな神戸だからこそ、そこに暮らす人々が過去を共有することで、未来の文化につながると思います。そのために永続的に存在することで場所性をもって歴史を伝えることができるものを再認識し、守り、残していかなければならないと感じました。



久保田 淳司(くぼた じゅんじ)

ディーオーケーブランニング

神戸LAB代表

ノー級建築士

ノインテリアコーディネーター